

コシヒカリ生育情報 第5号

急激な葉色低下！適切な穂肥と水管理で栄養維持！

【7月11日生育状況】（3か所平均）

平均 田植日	草丈(cm)		茎数(本/m ²)		葉数(葉)		葉色(SPAD)	
	本年	指標値比	本年	指標値比	本年	指標値差	本年	指標値差
5月19日	72	116%	489	105%	11.1	+0.2	34.9	-2.6

○指標値比較【草丈：長い 茎数：やや多い 葉数：並 葉色：薄い】

- ・草丈は長く（1日あたり約1.8cm伸長）、倒伏が懸念される。
- ・葉色は急激に低下し（前回調査-6.3ポイント）、栄養凋落が懸念される。
- ・向こう1か月（7/9～8/8）の平均気温は、高い確率60%であるため（新潟地方気象台7月7日発表）、葉色の急低下に引き続き注意し、水管理と穂肥施用で葉色の維持・回復に努める。
- ・7月上旬まで降水量が少ない状況が続いており、水路や畦畔などからの漏水がないように点検・補修するなど、少雨への対応にも留意する。

【今後の管理のポイント】

1 こまめな水管理で稲体活力の維持

- (1) 中干しは、出穂1か月前までには終了する。
- (2) 中干し終了後は、浅水の間断かん水から徐々に飽水管理へと移行する。

2 コシヒカリの穂肥施用～出穂期は平年より「2日早い」予想～

- (1) 出穂期予想と穂肥施用時期のめやす（7月11日現在）※ 5/20～5/25 植えの予想
出穂期は気象条件により前後する場合があるため、必ず各ほ場の幼穂確認を行い穂肥を施用

予想 出穂期	穂肥1回目		穂肥2回目		2回合計窒素量 (kg/10a)
	出穂前日数	施用時期	出穂前日数	施用時期	
8/3	18～15	7/16～7/19	10	7/24	1～3

- (2) 分施肥系の穂肥対応 ～1回目の穂肥は適切に施用～

1回目穂肥：幼穂長1cmの時に生育診断を実施し、下表を参考に適切に判断する。

2回目穂肥：後期栄養を維持するため、出穂10日前に確実に施用する。

穂肥施用時（幼穂長1cm）の稲姿	1回目穂肥対応の考え方	1回目穂肥の対応	
		施用時期	窒素施用量
穂肥が施用できる稲姿（基準） 草丈：75cm以下 葉色：SPAD値31～33（葉色板 単葉3.7～4.1）	基準どおりの時期・量で施用	出穂前18日	1.0～1.5kg/10a
基準より草丈長く、葉色薄い	遅めに施用	出穂前15日	1.0kg/10a
基準より草丈長く、葉色濃い	遅め・控えめまたは施用しない	（出穂前15日）	0～1.0kg/10a

※基肥一発肥料の場合は、幼穂形成期から飽水管理に切り替え、窒素成分の溶出を促す。

3 病虫害防除の徹底

- (1) 葉色の濃いところを中心に葉いもちの早期発見に努める。
- (2) 斑点米カメムシ類防除のため、農道・畦畔の草刈りや水田内雑草の除去を徹底する。